

登録コード	UAF58500	開講年度	2026				
授業題目	応用行動分析学特論					担当教員	奥村 真衣子
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					行動論の視点から、情緒面や行動面に困難を持つ者の心理を理解し、援助方法を提案することができる。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					情緒面や行動面に困難を持つ者のアセスメントの方法を学び、アセスメントから心理状態を分析し、支援立案できる力を身につける。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主力的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					情緒面や行動面に困難を持つ者への支援において、心理・教育・家庭等との連携の必要性とその方法を理解し、心理の専門職としての役割を認識し・支援を提案できる力を身につける。	
(2)授業の概要	本授業は講義と演習により展開する。情緒面や行動面に困難を持つ者の心理や援助方法について、主に行動論の視点から学習する。受講者は講義による理論の学習のほか、論文講読や事例検討におけるディスカッションをとおして理解を深める。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス—本授業の進め方— 第2回：行動問題の理解—環境との相互作用の視点— 第3回：行動問題の理解—行動随伴性— 第4回：行動問題の理解—機能の推定— 第5回：行動問題への対応—分化強化・非随伴性強化など— 第6回：行動問題への対応—シェイピング・プロンプト・課題分析・チェイニングなど— 第7回：行動問題への対応—段階的エクスポージャー・刺激フェイディング法など— 第8回：文献講読—幼児期における課題と援助— 第9回：文献講読—児童期における課題と援助— 第10回：文献講読—思春期・青年期における課題と援助— 第11回：事例検討—発達障害— 第12回：事例検討—場面緘黙— 第13回：事例検討—不登校— 第14回：事例検討—社交不安— 第15回：まとめ						
(4)成績評価の方法	演習課題への取り組み（50％）とレポート（50％）により総合的に判断する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可						
(5)成績評価の基準	1) 行動理論に関連する諸理論の基礎的理解 2) 行動理論に関連する諸理論の発展的理解 3) 発表における論旨の適切性 4) ディスカッションへの協働的な関与 5) オリジナルの見解提示 上記の内、全てを満たしていれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目を満たしていれば「やや上にある」、2項目を満たしていれば「水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	参考文献において授業に関連する内容や自身が関心のある内容を学習することを勧める。また、日ごろ出会う臨床事例や自身の経験を行動理論の視点から整理し、理論と実践の関連付けに努めること。 この授業は90時間の学習を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(7)履修上の注意	特になし						
(8)質問、相談への対応	奥村研究室（東校舎2階） Tel: 026-238-4206 E-mail: maio@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	指定しない						
【参考書】	・ミルテンバーガー著/園山繁樹他訳（2006）「行動変容法入門」二瓶社 ・リンジー・バーグマン著/園山繁樹監訳（2018）「場面緘黙の子どもの治療マニュアル—統合的行動アプローチ」二瓶社 ・エイミー・コトルバ著/丹明彦監訳（2019）「場面緘黙の子どものアセスメントと支援—心理師・教師・保護者のためのガイドブック—」遠見書房 ・クリストファー・カーニー著/今井必生訳（2018）「不登校の子どもに親ができること：4つのタイプ別対処法」創元社 ・クリストファー・カーニー、アン・マリー・アルバーノ著/佐藤容子, 佐藤寛監訳（2014）「不登校校の認知行動療法 セラピストマニュアル」岩崎学術出版社						